

【調査概要】

緊急地震速報を受信したら、まずは安全確保を

中谷内 一也(同志社大学 心理学部 教授)

【調査の目的】

5月5日に能登半島沖を震源とする強い地震が発生した。この地震に際して、緊急地震速報が発信された。

本調査の目的は；

(1)緊急地震速報は大きな揺れの前に住民に届いていたのか

(2)緊急地震速報を受信した住民はどのように行動したのか

を明らかにすること。

【調査地域】5月5日の地震で大きな揺れが観測された石川県全域、新潟県上越、中越地域、富山県全域

【調査日時】5月10日～11日

【調査方法】オンライン調査。クロス・マーケティング社にパネル登録する住民から回答者を募集

【調査結果】

1. 募集に応じた1620人（男性787人、女性833人、平均年齢49.5歳）の緊急地震速報受信状況 → 約8割の住民が携帯電話によって受信している。

		回答数	%
全体		1620	100.0
1	携帯電話で気づいた	1293	79.8
2	携帯電話以外の手段で気づいた（テレビ・ラジオ、その場にいた人、防災スピ	152	9.4
3	緊急地震速報に気づかなかった	70	4.3
4	わからない、覚えていない	105	6.5

2. その「携帯電話で気づいた」1293人の受信のタイミング

→ 約8割が揺れの前に受信できている。

		回答数	%
全体		1293	100.0
1	揺れる前に気づいた	1061	82.1
2	揺れと同時に気づいた	167	12.9
3	揺れた後に気づいた	41	3.2
4	わからない、覚えていない	24	1.9

【調査結果】

3. その「揺れる前に携帯電話で緊急地震速報に気づいた」1061人のうち、本調査に進んだ1000人の行動

質問文：携帯電話から緊急地震速報が鳴り始めた次の瞬間、あなたは、(1)まずは何をしましたか、(2)そして、その次に何をしましたか。

(1)まず、何をしたか

		回答数	%
全体		1000	100.0
1	携帯電話の速報を聞き続ける	88	8.8
2	携帯電話の画面を見る	370	37.0
3	揺れを身構えて待つ	224	22.4
4	ただ静観している	106	10.6
5	危険がないか周囲をチェックする	93	9.3
6	頭を守る（手やかばん等でカバーして）	7	0.7
7	身体の安全を確保する（しゃがむ、机の下に潜る、何かに掴まる等して）	55	5.5
8	他の人の様子に注意する	26	2.6
9	その他	20	2.0
10	答えたくない	11	1.1

【調査結果】

(2)次に何をしたか

		回答数	%
全体		1000	100.0
1	携帯電話の速報を聞き続ける	69	6.9
2	携帯電話の画面を見る	64	6.4
3	揺れを身構えて待つ	324	32.4
4	ただ静観している	138	13.8
5	危険がないか周囲をチェックする	178	17.8
6	頭を守る（手やかばん等でカバーして）	15	1.5
7	身体の安全を確保する（しゃがむ、机の下に潜る、何かに掴まる等して）	59	5.9
8	他の人の様子に注意する	85	8.5
9	その他	52	5.2
10	答えたくない	16	1.6